

特別講演

「MLA連携とデジタル化」

国立西洋美術館館長

青柳 正規

博物館、図書館、文書館のより密接な連携の重要は数年前から様々なところで指摘されてきた。知と情報の蓄積・継承・活用装置としてこれらの組織がシームレスな関係を実現できれば、総体としてより大規模で多様な知と情報をわれわれは獲得できるはずである。しかし、現実にはそのような連携が進んでいるかといえば、決して十分な進捗を見ているわけではない。その理由がどこにあり、どのような解決策があるのかを考えることにする。

略歴

青柳 正規 氏（あおやぎ・まさのり）

1944 年大連生まれ。ギリシア・ローマ考古学者。1967 年東京大学文学部美術史学科卒業。1969～1972 年ローマ大学に留学、古代ローマ美術史・考古学を学ぶ。文学博士。東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、同研究科長、文学部長、同副学長を経て、現在、国立西洋美術館館長。東京大学名誉教授。日本学士院会員。2006 年紫綬褒章。2011 年 NHK 放送文化賞受賞。ポンペイ「エウローパの舟の家」(1974-78)、シチリアのレアルモンテのローマ時代別荘(1980-86)、タルクィニア近郊のローマ時代の別荘 (1992-2003)、ソンマ・ヴェスヴィアーナの所謂「アウグストゥスの別荘」(2002-) の発掘にあたる。著作に、『エウローパの舟の家』(地中海学会賞)、『古代都市ローマ』(マルコ・ポーロ賞、浜田青陵賞)、『皇帝たちの都ローマ』(毎日出版文化賞)、『トリマルキオの饗宴』(小学館) など。